

1. 実況上の着目点

① オホーツク海付近にスケールの大きな寒冷渦があり、寒冷渦周辺の500hPa -42℃以下の寒気を伴うトラフが東～北日本を通過中。日本付近は強い冬型の気圧配置が続いており、北海道付近に小低気圧、日本海中部には収束線対応の対流雲列があり、日本海西部からのびる日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)が鳥取県～福井県を指向。収束に伴って北～西日本で3時間に15～20cmの強い雪を観測。

② 全国的に風が強く、外海は波が高く、しけている所が多い。南西諸島では吹送距離・時間が長く、うねりを伴ってしけている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 日本付近は24日にかけて強い冬型の気圧配置が続くが、1項①のトラフの影響で、特に22日朝にかけては、日本海から流れ込む対流雲が全般に活発となる事に留意。JPCZの指向先は、24日朝にかけて北陸地方を徐々に北上し、24日後半は再び南下する。上空トラフは23日と24日にも本州付近を通過し、24日は500hPa 5340m付近で-39℃以下の寒気を伴うトラフが西～東日本を通過する。

② 1項①の北海道付近の小低気圧は次第に不明瞭となるが、オホーツク海を中心とする低気圧性の気流と北西風とのシアライン上では上層の正渦度極大域に対応して22日夜までに北海道付近に新たに小低気圧が発生し、24日にかけてほとんど停滞する。その他、東北地方の日本海側にも収束線があつて24日にかけて北上する。

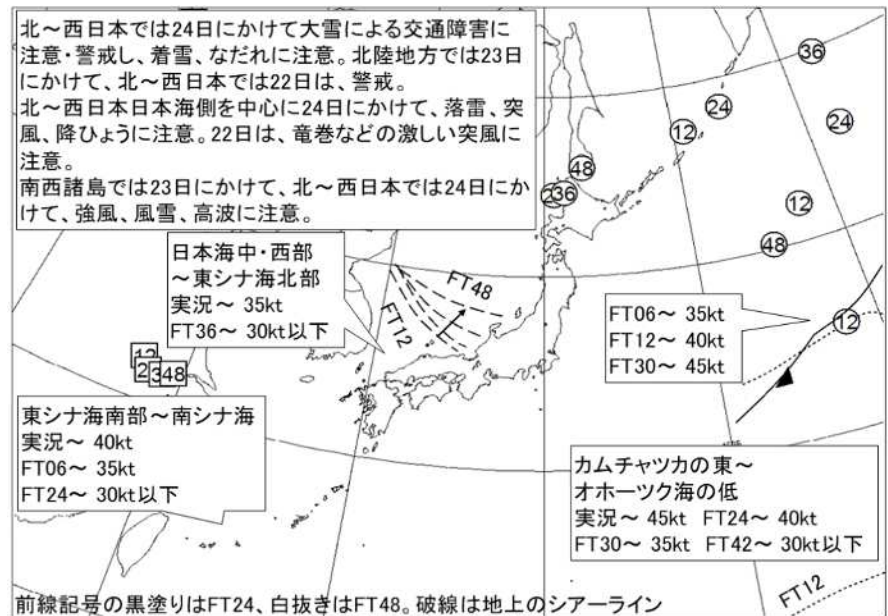
③ 冬型の気圧配置が続く中、2項①②の強い寒気、JPCZ、小低気圧や収束線の影響で、雷を伴い降雪が急に強まり、山沿いや山地だけでなく平地でも大雪となる所や、普段雪の少ない太平洋側でも大雪となる所がある。北～西日本では24日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪、なだれに注意。北陸地方では23日にかけて、北～西日本では22日は警戒。上空寒気の影響やJPCZ近傍では下層暖気が入るため、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北～西日本の日本海側を中心に、24日にかけて落雷、突風、降ひょうに注意。22日は局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

④ 日本付近は冬型の気圧配置が続くが、24日以後は西から次第に緩んでくる。南西諸島では23日にかけて、北～西日本では24日にかけて、強風、風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：北陸100、東北・近畿70、中国60、北海道・東海50、関東甲信30、九州北部15、四国10cm。③ 波浪(明日まで)：中国・沖縄5、その他広い範囲で4～3 m。④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北海道地方では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雪に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図